



Hinemos クラウド管理オプション Ver2.0 Standard for Cloudn

リリースノート 第1版

目次

1	はじめに	3
1.1	ライセンス	3
2	リリースノート	3
2.1	ver 2.0.3 for Cloudn での機能改善・不具合修正	3
2.1.1	仕様変更	3
2.1.2	不具合改修	3

1 はじめに

Hinemos クラウド管理オプションとは、さまざまなプライベートクラウド/パブリッククラウドサービスにより構成された環境を、Hinemosにて効率良く運用するための機能オプションです。

1.1 ライセンス

Hinemos クラウド管理オプションは **GNU General Public License** となります。各種ドキュメントは **GNU General Public License** ではありません。各種ドキュメントの無断複製・無断転載・無断再配布を禁止します。

2 リリースノート

2.1 ver 2.0.3 for Cloudn での機能改善・不具合修正

2.1.1 仕様変更

- ・ #2612 テンプレートジョブ作成ウィザードで、実行ユーザとして「エージェント起動ユーザ」が選べるようになった
テンプレートジョブを作成するウィザードの「コマンド/共通スクリプト[登録・変更]」ダイアログに、実行ユーザとして任意のユーザを指定方法に加え、「エージェント起動ユーザ」を選択できるようになった。
Windows環境でジョブを実行する際には、エージェントの実行ユーザと同じユーザとする必要があるが、Windowsごとにエージェントの起動ユーザが異なる可能性があり、特にAWSのWindowsテンプレートの場合、サービス登録した場合のデフォルト実行ユーザがホスト名となるため、事実上実行ユーザを固定することが難しかった。そのため、Windows環境へのテンプレートジョブにおいては「エージェント起動ユーザ」を選ぶことで、自動的にエージェント起動ユーザにてジョブが実行可能となった。

2.1.2 不具合改修

- ・ #2611 共通スクリプトを使ったテンプレートが実行できない
共通スクリプトのダウンロード機能を実行した場合に、権限が不足していて常に実行に失敗していた問題を修正。
- ・ #2613 自動検知で登録されたノードに対してプロセス監視が実行できない
自動検知で登録されたノードに対してプロセス監視を実行しようとしても、監視が実行されない問題を修正。
- ・ #2616 インスタンス作成時にファシリティ名に日本語を入力するとエラーとなる
クラウド管理オプションからインスタンスを作成・リストアした場合に、ファシリティ名として日本語などの文字列を入力すると、作成に失敗する問題を修正。これまではCloudnに仮想サーバを作成する際に、仮想サーバの「表示名」としてファシリティ名を指定していたが、仮想サーバの「表示名」としてファシリティIDを指定するように修正した。

Hinemos クラウド管理オプション ver2.0 Standard for Cloudn リリースノート

非売品

- 禁無断複製
- 禁無断転載
- 禁無断再配布

Hinemosは（株）NTTデータの登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中にはTM、Rマークは表記しておりません。